

令和6年度 学校における居場所と絆づくり実践研究事業 実施報告書

1 学校名

栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校

2 実施学年等

第1学年

3 生徒に期待する姿

【校訓】 正しく 剛く 寛く

【教育目標】

- 1 博く深く知識の修得に努め、自主積極的に事物を究明し、正しい判断力を養う。
- 2 心身を鍛錬して、不撓不屈、堅忍持久、活動的にして、実践力に富む徳性を養う。
- 3 自他の敬愛と相互協力の理念に徹し、責任を重んじ規律を守り、協調融和の精神を養う。
- 4 自己を育んだ一切の他力に深く思いを致し、感恩奉仕の信情を高める。

【育てる生徒像】

- 豊かな人間性と深い教養を身につけ、社会の発展に貢献できる生徒
- 科学的な見方や考え方を身につけ、新しい知の創造に貢献できる生徒
- 未来を切り拓く意志と実践力を身につけ、リーダーとして活躍できる生徒

【第1学年の目標】

- 正しい判断力を身に付け、積極的に行動できる生徒
- 望ましい学習習慣を身に付け、粘り強く努力できる生徒
- 思いやりと感謝の心を持ち、自他共に大切にできる生徒

4 本事業の内容

- (1) 年度途中における欠席状況等の分析及び不登校の兆候が見られる生徒を対象とした初期対応の取組
- (2) アンケート調査による実態把握及びすべての生徒を対象とした不登校の未然防止に向けた取組の工夫
- (3) 年3回の学校訪問

[各学校訪問の内容]

【第1回学校訪問】 令和6年5月	【第2回学校訪問】 令和6年7月	【第3回学校訪問】 令和6年12月
<ul style="list-style-type: none">○ 本事業の趣旨説明○ 出欠状況の把握○ アンケート調査結果の分析○ 学校の取組状況の把握○ 今後の取組について検討	<ul style="list-style-type: none">○ アンケート調査結果の分析○ 4～7月における出欠状況の確認○ 1学期の状況を踏まえた2学期の取組についての助言	<ul style="list-style-type: none">○ アンケート調査結果の分析○ 4～12月における出欠状況の確認○ 7月からの変化を踏まえた3学期の取組についての助言

5 具体的な取組

(1) 第1学年の取組（不登校対策の視点から）

予 防	未 然 防 止	全 て の 生 徒 対 象	○ 生徒に関する情報の共通理解、先生方の生徒理解に向けた取組	○ 生徒同士の相互理解や仲間づくり、生徒の主体的な活動を意図した取組
			<ul style="list-style-type: none"> 朝の打合せの活用(共通理解) Teams を活用した出欠状況の確認 Q-U 検査の活用 生徒指導部会等の結果の共有 関係する先生方からの情報提供 教育相談の実施 欠席した生徒への電話連絡 「嫌な思いアンケート」の実施及び即日対応 振り返り等を踏まえた生徒との対話 保護者との情報交換 養護教諭との連携 日頃の対話 など 	<ul style="list-style-type: none"> 学級目標の作成・掲示 「学年メッセージ」の言葉の掲示 健康観察の時間におけるテーマに沿った「一言」の実施 宿泊学習等の行事における生徒が主体となる活動の場の設定 振り返りシートの掲示等を通じた相互理解の機会の設定 「学級活動」等の実施 「中庭 de ランチ」の実施 パンジーを育てる活動 「中高交流会」「中学交流会」の実施 「総合的な学習の時間」におけるグループワーク 「エンターテイナー」で特技等の発表 「マイ ヒーロー」で理想の人物像を発表 学年委員による学年の課題を解決するための会議の実施 校訓「正 剛 寛」の「剛」を支える言葉を探し共有する活動
			<ul style="list-style-type: none"> 生徒面談の実施 保護者との情報共有 関係する先生方との情報共有 	
	初期対応	生徒対象 気になる	<ul style="list-style-type: none"> 欠席した生徒への電話連絡 保護者との情報共有 養護教諭との連携 スクールカウンセラーの活用など 	
	支援	生徒対象 必要な		

【中庭 de ランチ】



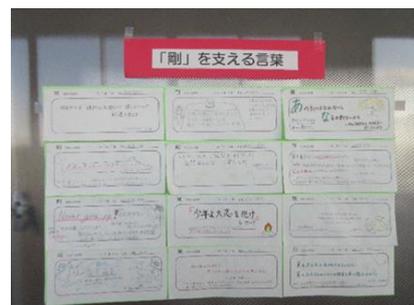
【パンジーの苗植え】



【中高交流会】



【「剛」を支える言葉】



の割合がやや減少した背景には、4回目の調査を実施した3月上旬は、学年末テストが終わった時期であり、また、学校行事が少ない時期であったことなどが考えられる。

- 中学校入学後に学習面でつまずきを感じる生徒が少ない状況にある中で、4回目において、問3「授業に積極的に取り組んでいる」の「ア 当てはまる」の割合が2、3回目の割合よりも増加し、また、問4「授業がよく分かる」の「ア 当てはまる」の割合が76～78%を推移したことについては、それぞれの授業において、生徒同士の学び合いの場を設定するなど指導の工夫の成果と考えられる。

6 成果

- 新しい取組や特別な取組を生み出すのではなく、これまで実践してきたことをこれまで以上に意識して実践していくようにした（「生徒が登校したくなる学校にしよう」、「不登校を未然に防止しよう」を意識して様々な活動を捉えなおす）ことによって、一つ一つの取組に、これまで以上に先生方の「思い」が加わった一年間であった。その「思い」が生徒にかける言葉になり表情になり、仕草になって生徒に届いたのではないかと思われる。



【学年の朝の打合せ】

- 管理職のサポートや教育委員会事務局からの指導助言等により、教師が日々の教育活動に安心して専念することができた。
- 「生徒が登校したくなる学校にしよう」、「不登校を未然に防止しよう」のキーワードのもとに教育活動を進めていくことで、生徒のわずかな変容を感じ取る力(生徒を観察する力)が伸長したように思われる。また、生徒の変容を積極的に共有しようとするコミュニケーションの機会も増えたように思われる。

7 今後の取組

- 今年度と同様、「生徒が登校したくなる学校にしよう」、「不登校を未然に防止しよう」のキーワードのもとに、生徒も教師も成長していく視点に立った取組を実践していく。
- 学級活動における生徒の主体的な取組を工夫することにより、生徒が自ら集団をよりよくしていく手ごたえを感じることができるようしていく。

【県教育委員会事務局担当者のコメント】

宇都宮東高等学校附属中学校では、1学年の先生方は「生徒が登校したくなる学校」を目指して、各時期に見られる生徒等の変化等を踏まえながら、学年主任を中心として先生方が心を込めて生徒一人一人と関わり、生徒同士が相互に理解を深めながら関係を構築できる場や機会、環境を意図的に設定・構成してきたことなど、日頃から様々な取組を進めてきました。また、1学年の廊下や教室には、生徒自身が作成したメッセージや振り返りシート、先生方が生徒を思って配置した作品等が掲示されたり、生徒が使用する物品が使いやすい場所に置かれたりしているなど、昇降口や下駄箱から教室に入るまでの環境が配慮をもって整備されています。このような日々の取組を通じて、生徒は安心して学校生活を送ることができており、結果として、欠席の長期化の予防につながっていると感じています。さらに、「生徒が登校したくなる学校にしよう」、「不登校を未然に防止しよう」というキーワードに込められた先生方の熱意や、生徒と一緒に成長していく謙虚な姿勢が、生徒に伝わっている様子を感じます。

来年度も、先生方がこの二つのキーワードを共有し、生徒が主体となった取組の工夫等に取り組むことを通じて、生徒が「正しく 剛く 寛く」をはじめ「生徒に期待する姿」に近づいていくことを期待しています。